

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：32647

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04318

研究課題名（和文）保育教諭の自律性と協働性を高める園内研修スキームの開発

研究課題名（英文）Development of Training Scheme within Nursery School to Enhance Autonomy and Cooperativity of Nursery Teachers

研究代表者

那須 信樹（NASU, Nobuki）

東京家政大学・子ども学部・教授

研究者番号：60300456

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：保育教諭による園内外の研修に関する意識調査より、各園における保育教諭の自律性と協働性を高める園内研修スキームの基盤を形成する上で重要となる視点を明らかにした。以下、主な3点を掲載する。

園内において職務経験に応じて求められる役割への保育教諭自身による自覚の必要性。「保育士等のキャリアパス」（2017年）を意識した園内外における往還的かつ組織的な研修計画の必要性。園単独で改善できる問題と、行政のバックアップや地域における複数園協働による新たな取り組みに向けた課題の整理の必要性。

研究成果の概要（英文）：The survey of nursery teachers' awareness about trainings within and outside nursery schools shows some important viewpoints to form the foundation of the in-school training scheme that enhances teachers' autonomy and cooperativity in each school. The main three points are as follows:

(1) Necessity of nursery teachers' own awareness about their roles required in each school according to their work experiences; (2) Necessity of intercommunicative and systematic training plans in consideration of "Carrier Path of Nursery Teachers etc." (2017); and (3) Necessity to distinguish issues between problems which can be improved independently in each nursery school and challenges for new initiatives through administrative support and multi-school cooperative actions in local community.

研究分野：保育学

キーワード：保育教諭 園内研修 協働性 園内外の往還性 幼保連携型認定こども園 園外研修 キャリアパス  
研修スキーム

## 1. 研究開始当初の背景

昨今、保育者の専門性向上に資する研修の重要性については、我が国の重要な保育の政策課題としても取り上げられるようになり、学会や研究会等においてさらなる研究知と実践知の蓄積が求められている。

筆者の研究（2012）においても、保育専門職の倫理観として求められる「学び、成長し続ける保育者」であるために、各幼稚園・保育所で働く保育者は、人的・時間的・予算的制約の中で様々な工夫を凝らしながら、保育者の責務として研修による自らの専門性の向上や自己研鑽を行っている実態を明らかにした（文献1）。しかしながら、年々増大し続ける保育専門職への社会的期待や向き合う課題の多様性、複雑さに多くの保育者が疲弊している現実もまた明らかとなっている（文献2）。

まさに、すべての保育者にとって「自立的な園内研修の拡充」（OJT）と「職能団体等による園外での研修」（OFF-JT）との有機的な関連性を意識した実効性の高い研修体制の構築は極めて重要な保育政策の課題であった。とりわけ、27年度より導入される「幼保連携型認定こども園」において保育に当たる「保育教諭」をサポートする研修制度の構築は喫緊の課題であった。

（文献1）：那須信樹「組織的な保育力向上をめざす保育者研修の開発に関する研究」（平成22年度－24年度日本学術振興会科学研究費助成、基盤研究（C）課題番号 22530899）、2012／（文献2）：細井香「保育のバーンアウトと関連要因に関する研究—『情緒的消耗感』に影響する要因の検討から—」日本保育学会第63回大会発表論集、p.557、2010

## 2. 研究の目的

保育新制度下における幼保連携型認定こども園、またそこで保育に従事することになる「保育教諭」としての資質向上とアイデン

ティティ形成において、園内外における保育教諭を対象とした研修の充実が喫緊の課題といえる。

一連の研究においては、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育教諭として求められる専門職としての自律性や協働性を実質的なものとしていくために、とりわけ、園内研修の仕組みづくりや研修をリードできるファシリテーター育成を通じて、保育教諭としての専門性の獲得や専門職としての倫理観の醸成による社会的地位の確立に寄与することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### （1）平成27年度

研究初年度は、保育新制度移行年度ということもあり、①従前より幼保連携型の認定こども園であった園に対して、これまでの園内研修の成果と課題についてヒアリング調査を行った。また、②27年度より新たに幼保連携型認定こども園に移行した園をサンプリングし、保育教諭として働く保育者と管理職を対象に、園内研修の実態についてヒアリング調査とアンケート調査（予備調査）を実施した。加えて、③認定こども園関連の職能団体関係者への園内研修に関するヒアリング調査を行った。

### （2）平成28年度

2年目については、③蓄積されたデータをもとに、幼保連携型認定こども園における園内研修の実態に関するアンケート調査（全国認定こども園協会加盟の幼保連携型認定こども園全園）を実施し、現状と課題を明らかにした。

### （3）平成29年度

最終年度は、④「職能成長観」の醸成を意図した園内研修と地域に所在する保育職能団体主催による研修との有機的な連携による保育教諭としての自律性と協働性を育む「園内研修システム」の全体像を検討した。併せて、

⑤厚生労働省や職能団体主催による講演会や研修会等において、保育教諭としての専門性の向上に不可欠であると考えられる(1)地位、(2)職務内容と職責、(3)処遇の改善に向けた政策提言を行った。

#### 4. 研究成果

保育教諭並びに管理職の園内外における研修に対する意識調査より、ここでは保育教諭(815名)の意識調査を中心に研究成果の報告を行うが、総じて、本研究の成果は、園内において職務経験に応じて求められる役割の存在を裏付け、保育士等のキャリアパス(2017年)を意識した往還性の原理に基づく園内外における研修スキームの骨格を形成する視点を明らかにした点にある。

##### (1) 保育教諭の研修ニーズについて

こども園への移行後の研修内容で高い数値を示したのが「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(48.2%)であった。次いで、「安全・衛生・危機管理に関するもの」(43.3%)、「特別な支援を要する子どもの保育に関するもの」(41.8%)であった。また、今後の研修に対する希望については「特別な支援」(57.8%)、「保護者への対応に関するもの」(51.2%)、「子育てに関するもの」(51.0%)であり、特別な配慮を要する子どもや多様な保護者への対応にかかる内容に高い関心が寄せられている状況が浮き彫りとなった。「実習指導に関するもの」に対する希望が比較的高い数値を示している点からは、幼保連携型認定こども園ならではの実習生受け入れにかかる課題の存在を明らかにした。

##### (2) 園内研修の実施形態について

「実践事例」(60.8%)と回答した保育教諭が最も多く、「講義」(57.2%)、「演習(ワークショップ)」(49.5%)、「保育教材の研究・制作」(46.0%)と続く結果となった。「1番効果があがった研修形態」については、こ

れも「実践事例」(24.9%)との指摘が最も多く、「演習(ワークショップ)」(20.5%)が続く。研修形態においては「手軽であること」や「身近なテーマであること」、さらに「情報交換」や「実践的に学ぶ」といった要素が求められていることが明らかとなった。

(3) 園内研修の成果が得られたと思うかどうかについて

「とてもそう思う」と回答した項目のうち、「自園の保育の質向上につながった」(42.0%)が最も多く、次いで「仕事に対する意欲の向上が認められた」(37.5%)、「専門的な知識の強化が図られた」(35.3%)と回答した保育教諭が多くみられた。一方、最も低い数値であったのが「保護者との情報の共有」(11.0%)であった。管理職の配慮としては、これまで以上に保護者への情報発信のあり方について検討を図ることの必要性を指摘できる結果だと思われる。一方の保育教諭は、外部研修で学んだことを自ら保護者に伝えるなど、保育の質向上に向けた取り組みを可視化し、発信しようとする専門職としての自律性への意識を高めていくことの課題の存在を明らかにした。

##### (4) 園内研修の課題について

「研修時間の確保」(43.3%)との指摘が最も多く、次いで「代替職員の確保」(32.3%)との指摘が多かった。前者は、園内での工夫次第で改善できる可能性もあるが、後者については園単独では改善解決できる問題ではなく、さらなる行政のバックアップや地域における複数園協働による新たな取り組みの必要性を示唆する結果でもあるため、本データをもとに認定こども園の管理職を対象とした研修会において問題提起等を行った。

##### (5) 研修内容に関連して

「新任」「中堅」「ベテラン」間比較を行った結果、有意差のあった項目を取り上げてみると、全体的には新任・中堅に比べ、ベテランの受講が多かった。しかし、「安全・

衛生・危機管理」においては、ベテランより中堅の受講が多く、「保育内容（言葉）」においては、ベテランより新任の受講が多い結果となった。

総じて、今回の最大の研究成果は、園内において職務経験に応じて求められる役割の存在を裏付け、保育士等のキャリアパス（2017年）を意識した往還性の原理に基づく園内・園外における効果的な研修スキームの基盤となる視点を明らかにできた。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計4件）

①那須信樹・細井香：「保育教諭の研修実態に関する研究」、日本保育学会第69回大会、2016

②那須信樹・細井香：「幼保連携型認定こども園における研修実態に関する研究－保育教諭の意識調査をもとに－」、日本保育学会第70回大会、2017

③那須信樹・細井香：「保育教諭の自律性と協働性を高める園内研修スキームの開発－過去の勤務経験による研修ニーズの分析を中心に－」、平成29年度保育教諭養成課程研究会、2017

④那須信樹：「幼保連携型認定こども園における研修実態に関する研究Ⅱ－管理職・保育教諭への意識調査をもとに－」、日本保育学会第71回大会、2018

〔図書〕（計1件）

①那須信樹 他、わかば社、「手軽に園内研修メイキングーみんなで作る保育のカー」、2016、109（pp.1-9、p.19、pp.64-75）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

①那須信樹 他、福岡市私立幼稚園連盟「はぐくみ35号」、2016

②那須信樹 他、福岡市私立幼稚園連盟「はぐくみ36号」、2017

③那須信樹、全国私立保育園連盟「保育通信」、No.757、2018

④那須信樹・細井香、科学研究費助成事業成果報告書「保育教諭の研修実態に関する調査報告Data Book」、2018

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

那須信樹 (NASU, Nobuki)

東京家政大学・子ども学部・教授

研究者番号：60300456

(2)研究分担者

細井 香 (HOSOI, Kaori)

東京家政大学・子ども学部・准教授

研究者番号：90383405

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし